



再葬墓だけじゃない！

## 珍品揃いの縄文時代晩期



調査では再葬墓以外にも様々な時代の遺構が見つかっています。中でも、縄文時代晩期の住居跡から出土した大量の土器や石製品は、非常に価値の高いものでした。



# 2006年 大発見！！



2006年1月、鈴木素行氏率いる有志の調査隊が発掘したところ、人面付壺形土器を始めとする再葬墓の壺が次々と発見されました。

## 発見された人面付壺形土器「いづみ」

高さ 77.7 cm、立体的な顎や、胴部の優美なフォルム、細部まで作り込まれた造形は、見る者を魅了します。



# 2017年 国指定！！

こうして泉坂下遺跡は、発掘された出土品の美術的価値と、保存状態の良さを評価され、2017年に国の史跡と重要文化財に指定されました。集落遺跡や古墳などで国指定史跡になっているものは数多くありますが、再葬墓遺跡として指定されるのは泉坂下遺跡が日本初で唯一です。

この大発見を受け、2012年から4次にわたって確認調査が行われました。この結果、全部で30墓の再葬墓と、それに伴う150個以上もの土器が埋められていたことがわかりました。



再葬墓の分布範囲

再葬墓とは、一度埋葬した後、一定期間をおいて骨を掘り出し、壺などに入れて再度埋葬したお墓のことです。弥生時代の東日本で広く営まれました。

全国で約 140 遺跡ほどが知られている、非常に希少な種類の遺跡です。発掘調査例はごくわずかです。

